

分布を広げるナガサキアゲハ

唐土洋一

揖保郡御津町室津に本種の定着が確認されてから、はや3年が過ぎた。ところで、この3年間におけるこの蝶の分布拡大には目を見はるものがあり、いまでは相生市付近においても余り珍しくない部類の蝶になってきた感じがする。因みに、筆者が調査した1980年度 の状況を報告しておく。

- (1) 5月24日、御津町室津で1♀採集およびミカン樹より2卵採集。
- (2) 5月31日、御津町室津でミカン樹より4卵採集。
- (3) 6月8日、相生市川原町にて1♀採集。
- (4) 6月13日、相生市金ヶ崎および鯛浜にてミカン樹より3令幼虫を各々1頭採集。
- (5) 6月14日、相生市天神町にてミカン樹より3令幼虫を3頭採集。
- (6) 8月2日、竜野市常照寺前にて1♂目撃および境内にて1♀採集。
- (7) 8月15日、御津町室津にて2♂♂1♀目撃。
- (8) 9月3日、相生市青葉台の自宅庭にて1♀採集および御津町室津にて2♀♀採集および1♀目撃。
- (9) 9月7日、御津町室津にて1♀1♂♂目撃および御津町尼谷にて1♂1♀目撃。
- (10) 9月13日、相生市石川島播磨重工構内にて1♀目撃および御津町室津にて5♂♂2♀♀目撃。
- (11) 9月15日、相生市天ヶ台山および大谷町にて各々1♂目撃および御津町室津にて6♂♂4♀♀目撃。
- (12) 9月17日、石川島播磨重工構内にて1♀目撃。

9月7日には室津にて定点観察を行ったので、合せて報告しておく。

時間：12：40～13：30

天気：晴のちくもり

確認した種名（雌雄の区別は省く）

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ① ナミアゲハ……………7 | ② クロアゲハ……………6 |
| ③ アオスジアゲハ……………6 | ④ ナガサキアゲハ……………15 |
| ⑤ カラスアゲハ……………3 | ⑥ モンキアゲハ……………10 |
| ⑦ ゴマダラチョウ……………4 | ⑧ コミスジ……………3 |
| ⑨ アカタテハ……………2 | ⑩ スジグロシロチョウ……………11 |
| ⑪ モンシロチョウ……………1 | ⑫ キチョウ……………1 |
| ⑬ ヒメウラナミジャノメ……………7 | ⑭ ヒカゲチョウ……………5 |
| ⑮ ヤマトシジミ……………3 | ⑯ ウラナミシジミ……………3 |

⑰ イチモンジセセリ………2

以上17種を確認した。

〈参考文献〉

広畑政己：(1980) 兵庫県のナガサキアゲハ
ひろおび、No.5

(S. 18 : YOHICHI MOROKOSHI 相生市)

赤西溪谷でオナガシジミを採集

花岡正

オナガシジミは県下ではまだ数ヶ所しか棲息が確認されていないが、1978年に赤西にて本種を採集したので報告する。

近くの音水、阿舎利では棲息が確認されているので、附近からまだまだ新産地が出るのではないと思われる。

赤西は溪谷全体にオニグルミ、サワグルミの若木から大木まで数多く有り、オナガシジミの棲息には適している様子。

1978年7月23日に尾崎、結城の両氏と採集に出かけ、梢上のオナガシジミを目撃、この日は採集できなかったが、夕立の中、梢上を飛び廻っている個体の多さには驚かされた。その後、7月31日に同地を訪れ、3♂1♀を採集した。痛みはほとんどなく、長野県産と比べてみたが、大きさや裏面の黒斑も変りがないように思えた。

1979年5月13日に今度は唐土、米村の両氏と同地を訪れ、2令幼虫を30頭採集した。幼虫はサワグルミの2m位の木や大木の枝から得られた。この時期のサワグルミの芽は枝の所々にかたまっていて、母蝶が産卵しやすそうな枝の芽の中を見て、黒い糞があれば本種と違ってまちがいない。

採集した幼虫は約20日で蛹化し、10日後の6月15日ごろから羽化を始めた。飼育で気付いたことを2点、(1)クルミの新芽は痛みが早いので、枝ごとそれもなるべく長くビンなどの容器にさして飼育するのがよい。クルミとまぎらわしい木があるが、クルミは粘りの強い液が新芽から出るので容易にわかる。

(2)蛹化は葉上やシャーレですが、蛹化後必ず尾端を軽く固定すること。葉上で蛹化した個体は必ず葉をつけておくこと。これはカラを破っても、カラが体から離れずに羽化できなかったとか、カラから出て、それに力を使い切ってしまう、羽化できずに終ったりさせない為にもぜひ必要である。

赤西溪谷でのオナガシジミの調査報告に加え、飼育上の要点などをまとめてみた。

(S. 19 : TADASHI HANAOKA 姫路市)